

日本美術サウンドアーカイヴ

——和田守弘《認識に於ける方法序説 No. I SELF・MUSICAL》1973年



提供：和田弥生 撮影者不明

会期 2018年4月8日(日)～4月14日(土)

12:00-20:00 月曜休廊 最終日は12:00-17:00

会場 南青山 Art & Space ここから

展示作品 和田守弘《認識に於ける方法序説 No. I SELF・MUSICAL》
(1973年)再制作 他

トークイベント

日時 2018年4月8日(日) 19:00-20:30

会場 南青山 Art & Space ここから

入場料 1000円

予約 info@cococara-minamiaoyama.com 03-6434-7547

出演 畠中実、金子智太郎

日本美術サウンドアーカイヴ

日本にはこれまでに、美術館や画廊、アトリエや公共空間でさまざまな音を鳴り響かせてきた美術家がいる。しかし、ほとんどの音は鳴り止んでしまえば、再び聞くことがかなわなかった。視覚資料を中心とする美術史のなかで、音をめぐる情報はどうしても断片的なままに留まってしまふ。日本美術サウンドアーカイヴはこうした美術家たちによる参照しにくい過去の音にアクセスしようとするプロジェクトである。

作家や関係者へのインタビュー、文献調査、作家が所有する録音などを通じて、過去の作品にまつわる情報を収集し、整理する。そして、作品の再制作や再演を作家に依頼し、もしくは自分たちの手で行い、展覧会、イベント、レコードなどのかたちで発表していく。このような活動を通じて、日本美術における音の意義を検討し、その可能性を開くための基盤をつくりだしたい。

日本美術における過去の音について考えようとするとき、現代の私たちはたくさんの問いに出会う。それは各時代の美術の動向のなかでいかに位置づけられたのか。音楽をはじめとする同時代の他の芸術といかに結びつき、区別されたのか。同時代の聴覚文化や視覚文化といかに関わってきたのか。これらの問いを前にした人が、まず音に向きあうことから探求をはじめられるようにすることは、このプロジェクトの大きな目的のひとつである。

2017年10月 金子智太郎 畠中実

和田守弘 (1947-2007)

1947 香川県に生まれる

1973 多摩美術大学絵画科油画専攻卒業

個展(選)

1971 「自然に於ける黙示録」 田村画廊/東京

1972 「遙かモウビ・ディックの白い巨体を求め…」 田村画廊/東京

1973 「認識に於ける方法序説 No. I SELF・MUSICAL」 田村画廊/東京

「認識からの方法序説 No. III Mr. NOBODY 言葉の中のモニュメント」 田村画廊/東京

1974 「アフリカシオン No. I」 田村画廊/東京

「アフリカシオン No. IV 用と様から……」ときわ画廊/東京

1975 「表述 No. I —applicationあるいはmimesisを背景として」 真木画廊/東京

「表述 No. II —変換という流れの中の真実と虚構」 白樺画廊/東京

1976 「表述 No. III 一日常のあいだの意味の関係」 田村画廊/東京

「表述 No. V 一繰り返される日常からの導出から導出へ」 白樺画廊/東京

「表基 No. I (実体鏡としての用) —表述 No. VII」 真木画廊/東京

1977 「表基 No. II (媒律性としての用) —表述」ときわ画廊/東京

「表基 No. III (持続する意味の内在について) —表述」 田村画廊/東京

「表基 No. IV (持続と関係から) —表述」ときわ画廊/東京

1978 「表基 No. IV」 真木画廊/東京

1979 「表基 —誘引作用」ときわ画廊/東京 ('80 '81)

1981 「表基 —変奏」 画廊パレルゴン/東京

1982 「表基 —変奏」ときわ画廊/東京 ('84)

1985 「表基体」ときわ画廊/東京 ('87 '90 '97)

1987 「表基体」 エスエスギャラリー/東京 ('89)

1992 「表基体 '92 —水膜の向こう側」 島田画廊/東京

1994 「表基体 '94」 ギャラリースペース21/東京

1995 「表基体 '95」 ZEN工房/愛媛

1998 「新作油彩画 —Recent Works」 オオスキアンドアソシエイツ/東京

2000 「再生に向かって —ラスコーからの新たなる旅立ち」 田中画廊/東京

グループ展(1970年代、選)

1971 「第6回国際青年美術家展」 高輪美術館/東京

「第6回ジャパン・アート・フェスティバル」 東京国立近代美術館/東京 他

1972 「DO IT YOURSELF KIT」 銀座ソニービル/東京

「第2回 ビデオ・ショー 開かれた網膜・わしづかみの映像」 アメリカンセンター/東京

1973 「FILM・IN・TAMURA 73」 田村画廊/東京

1974 「第3回 ビデオ・ショー TOKYO—NEW YORK 「VIDEO EXPRESS」」 天井敷数館/東京

「第11回 日本国際美術展 (東京ビエンナーレ) 複製映像時代の芸術」 東京都美術館/東京

「第14回セント・ジュード・招待ビデオ・ショー」 サンタ・クララ大学/カルフォルニア

「第7回 現代の造形〈映像の表現'74〉」 アート・コア・ホール/京都

1975 「VIDEO ART」 シカゴ美術館/シカゴ 他

「フィルムメディア・イン・タムラ '75」 田村画廊/東京

「MAKI・SPACE No. I (by Film)」 真木画廊/東京

「Video Work Shop」 天井敷数館/東京

1976 「1976 京都ビエンナーレ (七名の評論家による現代作家展)」 京都市美術館/京都

1977 「第7回国際ビデオ・エンカウンター」 ミロ美術館/バルセロナ

「'77 MAKI・SPACE No. II —VIDEO IN TOKYO」 真木画廊/東京

1978 「第4回 100フィート・フィルム・フェスティバル」 イメージフォーラム/東京

1979 「今日の作家 '79展」 横浜市民ギャラリー/神奈川

Art & Space ここから
東京都港区南青山2-27-20 工藤ビル202
info@cococara-minamiaoyama.com
03-6434-7547

